

更に電氣局は最後の若し、水に電車運賃と自動車運賃の差を以て拾遺日附始初六
年及際算算に於ける運賃自動車収入減に就てと云ふも、金控委員に配布し
又入金本部で控委員を以て訓示と初め注ぎしと並へるといふ事はないことと言ふ
し、金控委員の斗争力を妨め、株として承るのだ、だから何れ彼等が巧言を弄して
も、現更後運賃の収入は低下せられ、亦年千二百万円以内の人員費より百五十万円が
出ることは更に一割以上の食料が加えられることになるのは、理屈の問題ではなくて、現実の問
題になるのだ。馬鹿にするには程がある、こう云ふ馬鹿々々しい事を信する控委員
は一人もない筈だが、しかし入金本部の斗争委員は、逆空情によって控委員が一人も迷
はさぬようにはしなければならぬ。
と云ふことは、電氣局の最後のモガキである。だから入金本部斗争委員は更に此の逆空情を
更に倦意の力によつて電氣局が昇進程でも何とかすると云ふ株になつたのだし、又所長や主
任を通つての逆空情も倦意の力であることだ。アジツて更に大衆の憤激を高め行動による
指令を押し進めなければならぬ。
首脳部は、於て必要を提出し、決意した、従つて近く行動の指令も遂次発すること
になつてゐる。

(三)

だが倦意は此の電氣局の條件と斗争を阻止せんとする彼等の策謀に対し、充分更に備
へなければならぬ。
それは電氣局が前向に発表した株なきことを倦意の要求の回答にされた時、倦意はそれ
を即時へ返して、漸々金要求の獲得に進み得る株に、金控委員に決意を持たせられ
ればならぬ。
その為めには更に執拗に力を入れ、力が煽動がなされなければならぬ。其の決意を持た
せなければならぬのだ。
一九三〇、一、二、一

指令 斗争部幹部ノニ

中 史 首 脳 部



(三) の つ い き

其れには各組合班級は、戦場に於ける中心分子の拡大した會合を、創り活動的中心分
子へ其の分子は相當の組班等に於ける倦意ある(う)に對して、この決意に對して、其の分子
を通じて、入金委員にそんな事では、倦意の斗争は、漸々切つて、折切るものではない事を、特に注意
すべきである。此のことは、あらゆる場合を通じて、回答も、執拗に果敢になされなければ